

浄水器内蔵キッチン水栓 オールインワン浄水栓

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

JF-AJ461SYX型 JF-AJ461SYXB型
JF-AK461SYX型 JF-AK461SYXB型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況により重大な結果に結び付く可能性があります。
- いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意

「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」



「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)



「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)



「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)



「分解してはいけません!」(分解禁止)

注意

	水道水および飲料可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。 ※飲料可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。	
	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
	給湯器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。 なお、誤動作などによるヤケド防止のため、60℃給湯をおすすめします。	
	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
	修理技術者以外の方は、絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。 ※正常な温度調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を抑えた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動がおこり、湯温が上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
	フレキシホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。	
	【寒冷地仕様の場合】 水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
	【寒冷地仕様の場合】 お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。	

本製品の仕様と条件

給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲料可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】	0~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】	-20~40℃	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	0.1MPa(流動時)(※2)~0.75MPa(静止時) 給水圧力≧給湯圧力(※3)		
取付条件	水栓取付穴: φ35~φ39mm、カウンター厚: 6~30mm		

- ※1 飲料可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。
- ※2 浄水シャワー以外は流動時0.05MPa~ご使用できます。
- ※3 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例式制御式: 16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.16MPa(流動時) : 給湯器設定温度75℃ A+0.12MPa(流動時) : 給湯器設定温度60℃ A+0.08MPa(流動時) : 給湯器設定温度42℃
最高圧力	0.75MPa(静止時)

Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開。
- 給水温度5℃、吐出温度42℃。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.1MPa(流動時)
最高圧力	0.75MPa(静止時)

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。
- 給湯圧力は水栓直前における流動時の圧力です。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 水栓本体の取付けにはプラスドライバー、スパナ(呼び8、24)、が必要です。

止水栓と点検口を設けてください。

- 取付け後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、**流量調節をしてください。**特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

補強材を使う場合

カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売のA-3811を使用して取付けてください。

その他の注意点

- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 商品の表面には直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

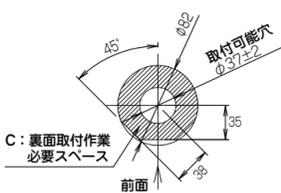
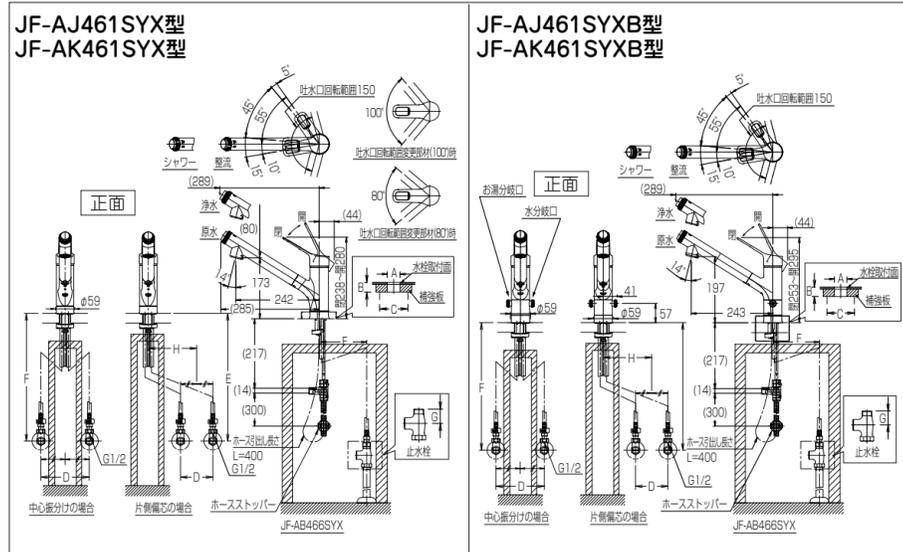
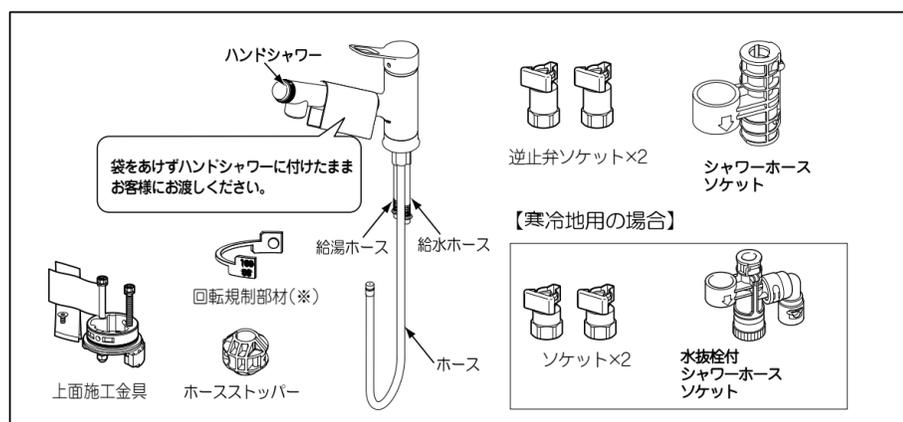


図1. 裏面取付作業必要スペース寸法(1:5)

	中心振分けの場合	片側偏芯の場合
A: 取付可能穴径	φ37±2mm	φ37±2mm
B: 取付可能カウンター厚さ	6~30mm	6~30mm
C: 裏面取付作業必要スペース寸法	図1に示す範囲以内	
D: 給水・給湯止水栓芯々寸法	200±10mm	80~100±10mm
E: 水栓取付面から給水・給湯止水栓中心までの寸法	400±10mm	360±10mm
F: 水栓中心から給水・給湯の止水栓接続中心までの寸法	0~50mm	
G: 止水栓の標準寸法	30~35mm	
H: 水栓中心から給水・給湯芯々の中心までの寸法	0mm	120~150mm

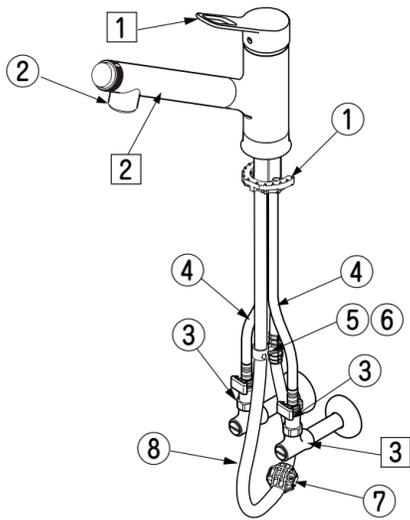
※湯水の止水栓(配管)の間の範囲(口部)には、分岐配管や障害物がないようにしてください。ホースの出し入れの障害になります。(口部)はおおよそのホース取り直し範囲を示します。

部品の確認



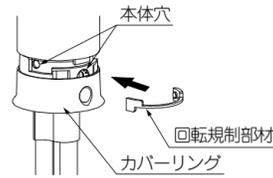
※JF-AJ461SYXB型、JF-AK461SYXB型には同梱されません。

施工手順



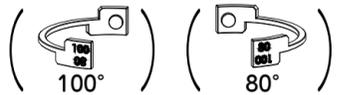
- ① 上面施工金具の取付け
 - ② 回転規制部材の取付け
 - ③ 水栓本体の取付け
 - ④ ソケットと止水栓の接続
 - ⑤ 給水・給湯ホースの接続
 - ⑥ ホースとシャワーホースソケットの接続
 - ⑦ 吐水管とシャワーホースソケットの接続
 - ⑧ ストッパーの固定
 - ⑨ ホースの収納性の確認
- ① 通水確認
② ストレーナーの掃除
③ 流量の調節

2. 回転規制部材を本体穴にはめる。



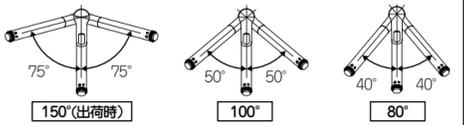
注意

使用したい角度の表示が上になるようにして、本体へはめてください。



注意

シンクに水栓を取付ける前に吐水口がシンク外にはみ出さないように、吐水口の回転角度を調整してください。
※シンク外へ吐水される恐れがあります。



3. 水栓本体の取付け

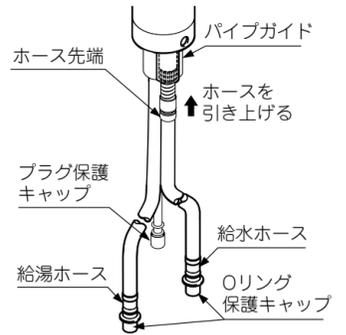
1. ホースの先端がパイプガイドの中にかくれるまで引き上げる。



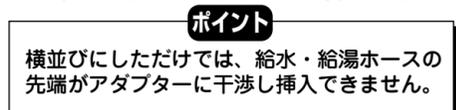
注意

先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミが噛み込むことで、漏水の原因となります。

落下注意!
傷や破損の原因になります。

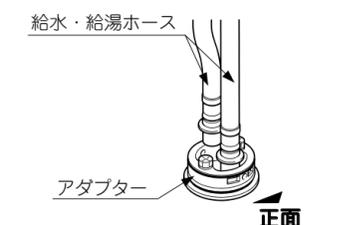


2. 給水・給湯ホースの先端を横並びにし、さらに上下にずらしてアダプターに挿入する。

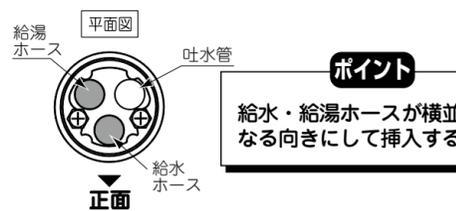


ポイント

横並びにただけでは、給水・給湯ホースの先端がアダプターに干渉し挿入できません。

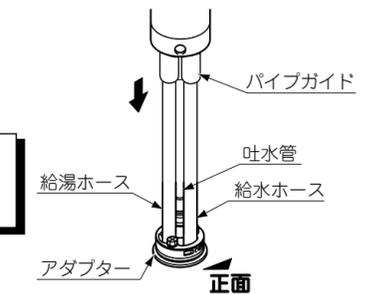


3. パイプガイドがアダプターに当たる直前までは、アダプターの内側全体を使って挿入する。



ポイント

給水・給湯ホースが横並びになる向きにして挿入する。



4. パイプガイドがアダプターに当たる手前で水栓全体を回し、挿入する。

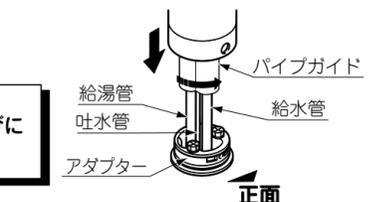


ポイント

給水・給湯ホースが横並びになる向きにして挿入する。

注意

水栓全体が回転可能となる前に無理に回さないでください。
※給水・給湯管等が破損し、漏水の原因となります。

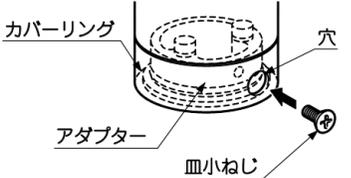


5. カバーリングの穴、水栓本体の穴、アダプターの穴の全てをそろえて皿小ねじで固定する。

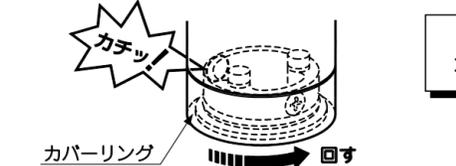


確認

水栓本体にくらつきがないこと。



6. カバーリングを180°回転させ、穴を後ろに回す。

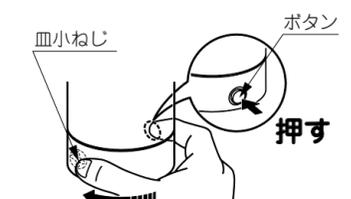
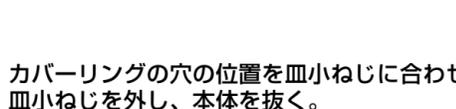


ポイント

カチッと音がするまで回す。

〔水栓本体の取外し方〕

1. カバーリング背面のボタンを押しながらカバーリングを180°回す。



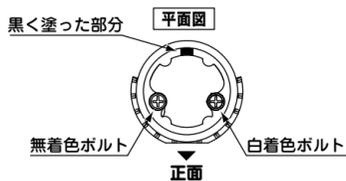
ボタンを押しながら回す

2. カバーリングの穴の位置を皿小ねじに合わせ、皿小ねじを外し、本体を抜く。

2. 施工方法

以下の手順通り、正しく取付けてください。

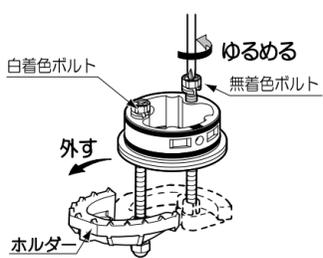
1. 上面施工金具の取付け



注意

上面施工金具は向きに注意して、正しく取付けてください。
※正しく取付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因となります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。



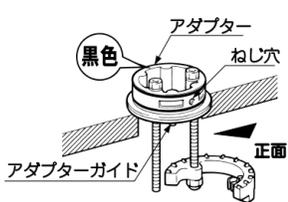
2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。



ポイント

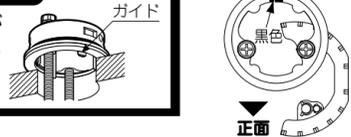
- 無着色ボルトは引っかかりないように少し引っぱり上げておく。
- ホルダーがカウンター裏面の障害物に引っかかり、正しい位置に取付けできない場合は、白着色ボルトを数回左右に回してください。

3. アダプターの黒く塗った部分が後方を向くように位置決めをする。

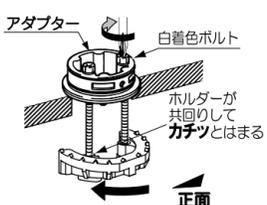


確認

4本のガイドが取付穴に確実に入っていること。

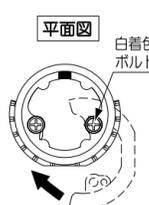


4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。

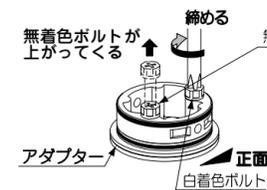


注意

ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。
正しく施工できなくなる恐れがあります。

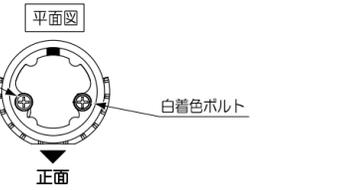


5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。

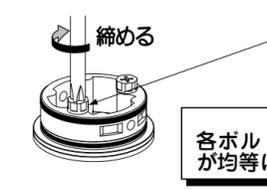


ポイント

各ボルトを交互に締め付け、締め力が均等になるようにする。

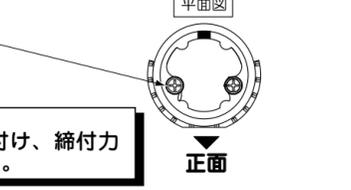


6. 無着色ボルトをしっかりと締める。

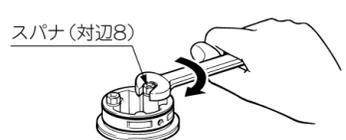


ポイント

各ボルトを交互に締め付け、締め力が均等になるようにする。



7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回程度増締めする。



注意

締め付けすぎないでください。

確認

アダプターのくらつきがないこと。

2. 回転規制部材の取付け

出荷時の回転規制角度は150°のため、必要に応じて変更をしてください。

1. カバーリングの穴と水栓本体の穴をそろえてカバーリングを下にズラす。

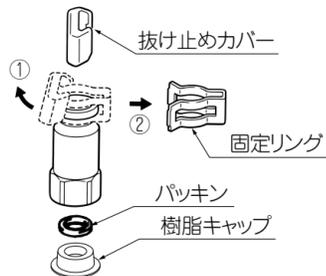


4 ソケットと止水栓の接続

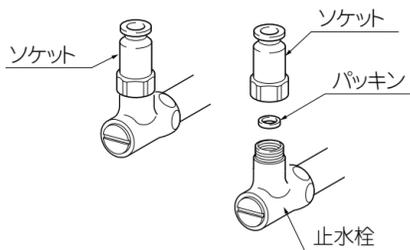
1. 抜け止めカバー、固定リング、樹脂キャップを取り外す。

注意

パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。

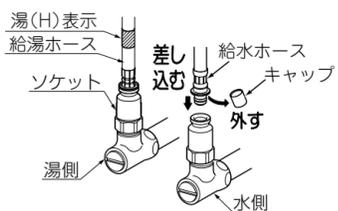


2. ソケットを止水栓に固定する。



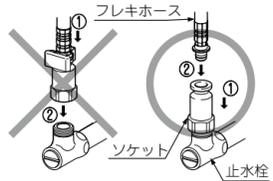
5 給水・給湯ホースの接続

1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。



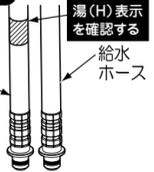
注意

必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。



注意

給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。



ポイント

Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

ポイント

ホースが挿入しにくい場合は、ハンドルを開けた状態で施工する。

2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

注意

ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。



注意

はめ損ねに注意してください。
※固定リングが外れると漏水の原因になるので、必ずしっかりとめ込んでください。



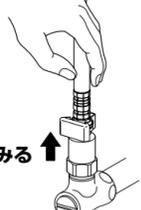
注意

抜け止めカバーははめたままにしてください。
※直接固定リングに触れるとケガをする恐れがあります。



確認

確実に接続されていること。
※接続後に固定リングを回し、確実にハマっていることを確認してください。
※給水・給湯ホースを上を引き、確実に接続されていることを確認してください。



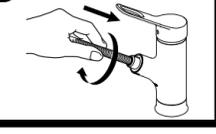
6 ホースとシャワーホースソケットの接続

1. ハンドシャワーをハンドシャワー引出し口に納める。

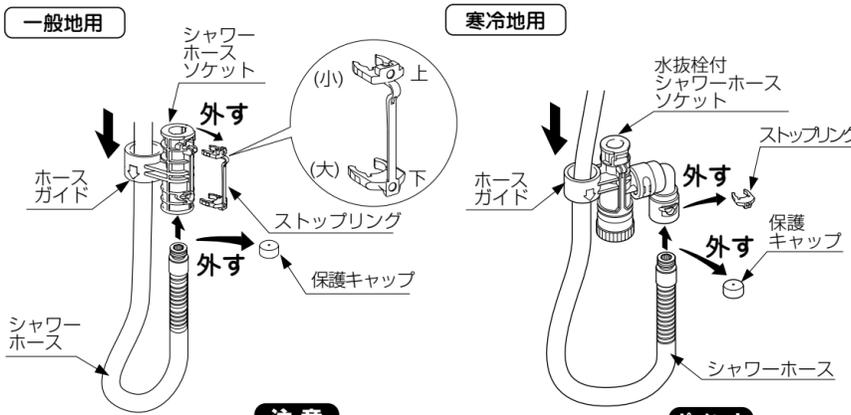


ポイント

ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させる。



2. シャワーホースをホースガイドを通して、シャワーホースソケットに差し込む。



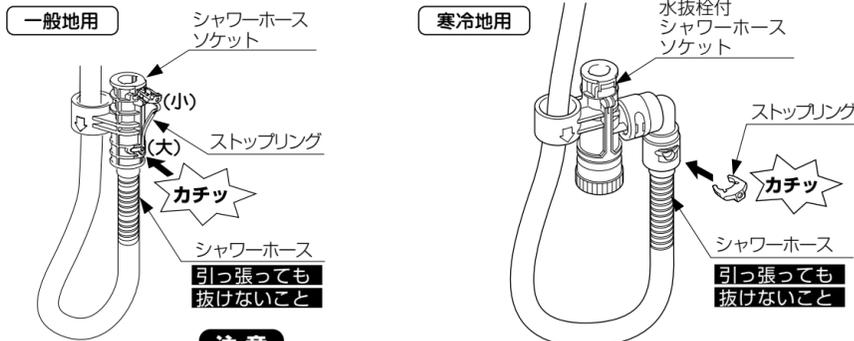
注意

ストップリングを紛失しないように注意してください。
※シャワーホースが固定できず、漏水の原因となります。

ポイント

シャワーホースは奥までしっかりと差し込む。

3. ストップリングをシャワーホースソケットに差し込んだ後、シャワーホースを引っ張っても抜けないことを確認する。



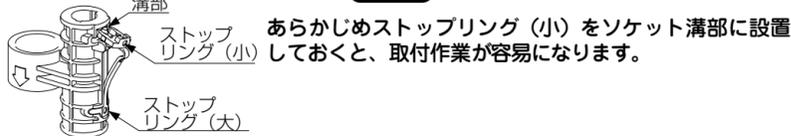
注意

ストップリングは、しっかりとめ込んでください。
※ストップリングが外れると漏水の原因となります。

ポイント

シャワーホースを引っ張っても抜けないこと。

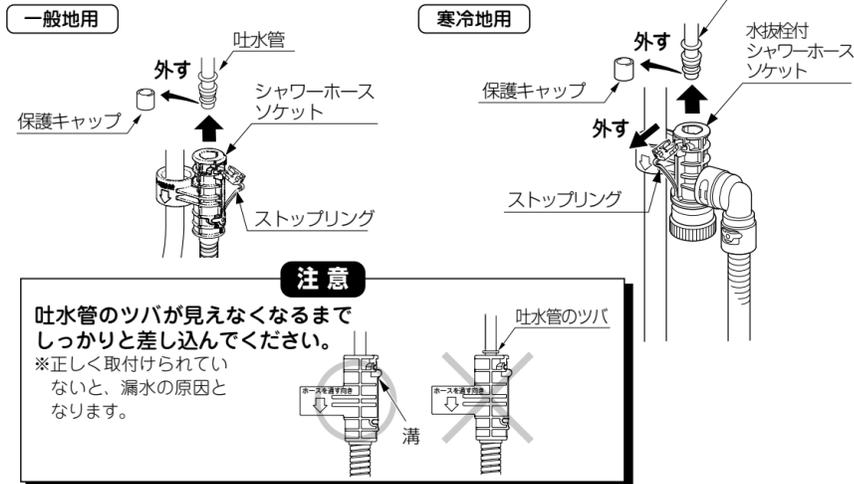
ポイント



あらかじめストップリング(小)をソケット溝部に設置しておくと、取付作業が容易になります。

7 吐水管とシャワーホースソケットの接続

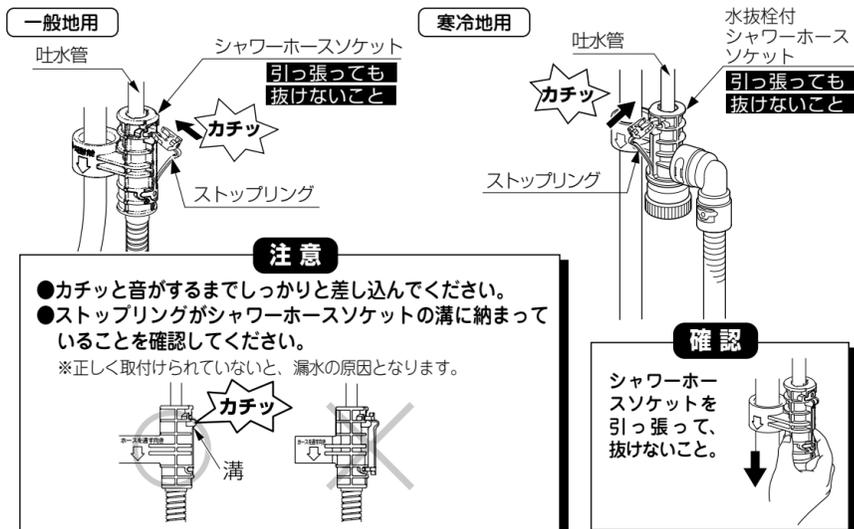
1. シャワーホースソケットを吐水管に差し込む。



注意

吐水管のツバが見えなくなるまでしっかりと差し込んでください。
※正しく取付けられていないと、漏水の原因となります。

2. ストップリングをシャワーホースソケットに差し込んだ後、シャワーホースソケットを引っ張っても抜けないことを確認する。



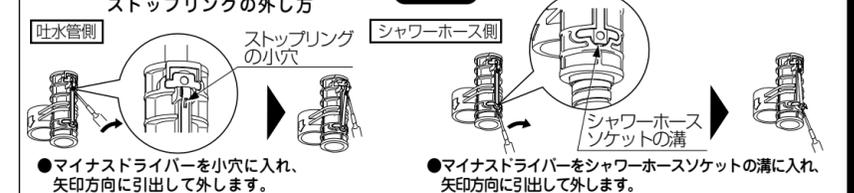
注意

●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
●ストップリングがシャワーホースソケットの溝に納まっていることを確認してください。
※正しく取付けられていないと、漏水の原因となります。

確認

シャワーホースソケットを引っ張って、抜けないこと。

ポイント



●マイナスドライバーを小穴に入れ、矢印方向に引出して外します。

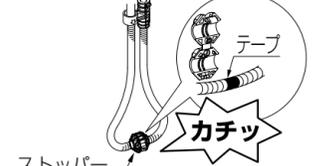
●マイナスドライバーをシャワーホースソケットの溝に入れ、矢印方向に引出して外します。

8 ストッパーの固定

ストッパーをテープを覆うように取付ける。

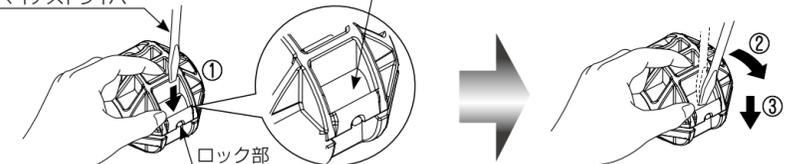
ポイント

ハンドシャワーは吐水口に収めた状態で行う。



ポイント

ストッパーの外し方
1.ストッパーを指で押さえ、ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差し込みます。
2.差込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾けます。
3.マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外します。



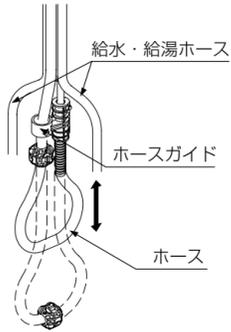
9

ホースの収納性の確認

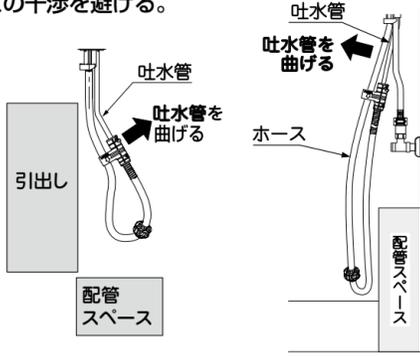
1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが、給水・給湯ホースや他の配管等と干渉せずにスムーズに上下に動くことを確認する。

ポイント

- ホースがねじれていない状態で、給水・給湯ホースと干渉する場合は、給水・給湯管を、軽く曲げてホースの干渉を避けてください。
- ホースが他の配管等と干渉し、ホースがスムーズに上下しない場合は、ホースガイドを回転させて、ホースとの干渉を避けてください。

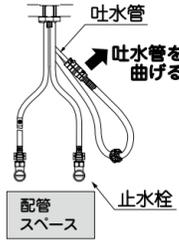


2. ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐水管を軽く曲げて、ホースの干渉を避ける。



確認

ホースがスムーズに上下に動くこと。



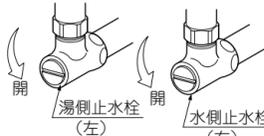
3. 施工後の調整

以下の手順通り正しく調整してください。

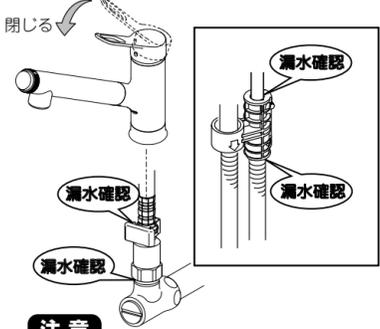
1 通水確認

通水確認を以下の要領で行ってください。

1. レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水・給湯の止水栓を開く。



3. レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。



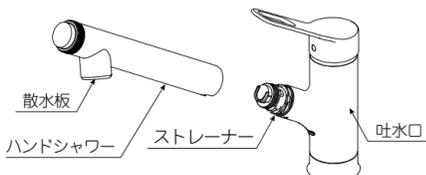
2. 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。



注意
高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。

2 ストレーナーの掃除

初期通水のごみを取り除くため、以下の要領で、ストレーナーの掃除を行ってください。

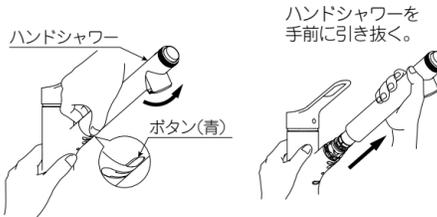


注意
散水板は外さないでください。

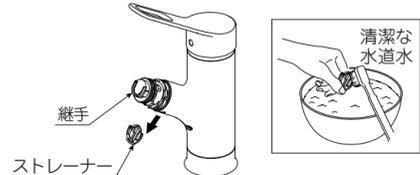
1. ボタン(青)を押しながら水の出口を右側に向け、ハンドシャワーを引き抜く。



注意
グリップ及び吐水口に無理な力をかけないこと。



2. 継手のストレーナーを引き抜き、ストレーナーについてのごみを洗剤を使わず、歯ブラシ等でこすり落とす。



3. 水の出口を右に向けたまま止まるところまで差し込む。

ポイント

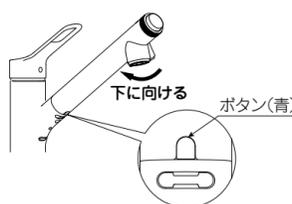
- グリップはしっかり奥まで差し込む。



4. 押し込みながら水の出口を下に向ける。

ポイント

- ボタンがグリップに収まっていることを確認する。
- 最後まで回ったことを確認する。



3

流量の調節

水圧が高い場合は、レバーハンドルを全開にしたときの原水整流が湯と水でそれぞれ6L/min (500mlの容器(ペットボトルなど)をいっぱいにするのに約5秒)以下になるよう止水栓で流量調節をしてください。

ポイント

- 以下の場合は、水圧が高く過剰流量になっていることが考えられます。
(1)浄水と原水がうまく切り替わらない。
(2)表示と異なる箇所から水が出る。



4. 引渡前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

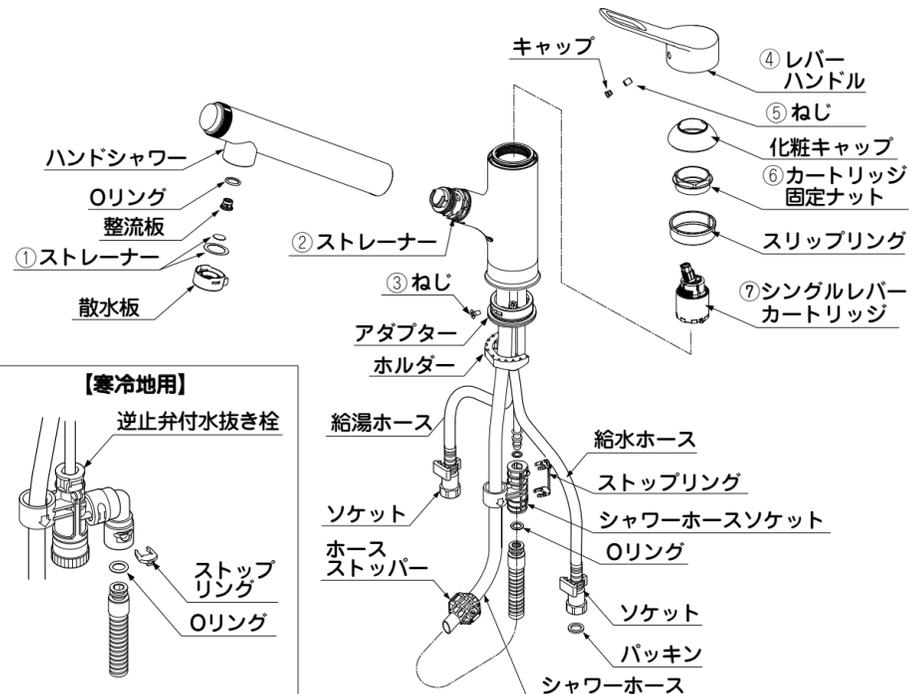
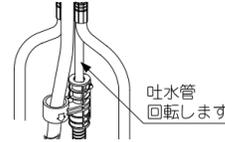
現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か?		「本製品の仕様と条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?		抵抗となる障害物を取り除く。
	止水栓は十分開いているか?		止水栓を十分開く。
水が止まらない	ストレーナーのゴミ詰まりはないか?	①、②	「ストレーナーの掃除」の項参照。
	ゴミかみはないか? キズはないか?	⑦	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。
レバーハンドルが右側に回らない。	レバーハンドルの操作位置は正しいか?	④	エコハンドル仕様のため、レバーハンドル操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
整流が乱れる 表示と異なる箇所からも水が出る。 切替ボタンが硬くて押しにくい	ゴミかみはないか?	①	「ストレーナーの掃除」の項参照。
浄水がコップから飛び出す。 (水はねが多い)	流量調節はよいか?		「流量の調節」の項参照。
使用中、レバーハンドルが自然に動く。			
希望の温度が得られない	レバーハンドルの操作位置は正しいか?	④	エコハンドル仕様のため、レバーハンドル操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
水栓本体がガタつく レバーハンドルがガタつく	圧力は十分か?		「本製品の仕様と条件」の項参照。
	流量調節はよいか?		「流量の調節」の項参照。
ホースがスムーズに収納できない	ストレーナーのゴミ詰まりはないか?	①、②	「ストレーナーの掃除」の項参照。
	ゆるみはないか?	③	ねじをしっかりと締める。
	ゆるみはないか?	⑤	ねじをしっかりと締める。
	シンク内でホースがねじれたり、配管等と干渉していないか?		「ホースの収納性の確認」の項参照。

ポイント

故障ではありません。

- この商品は吐水管が回転します。シャワーホースソケットと接続後も回転しますが、故障ではありません。

- 水を止めた後に少しの間水が垂れますが、ハンドシャワー内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。



5. 引渡

水栓に浄水カートリッジの入った袋を付けたまま、お客さまに引き渡してください。

